

目的 従来、身体および素材に適合した衣服を設計するために官能検査法を用いた実験的研究が行われている。その場合の着用実験はa. 5段階の絶対評価およびb. 一対比較法がとられている。aとbで着用実験をした場合の結果の差異、判定の精度および繰返しの効果について検討した。

方法 実験の要因は「実験の繰返し」、「判定者」、「胸幅・背幅を変化させた衣服」の3因子とした。特性値は「前身頃」、「後身頃」、「袖ぐり周辺の身頃」、「全体」の4種類である。着用実験はa, bの2種類を行い、判定基準は「よいーや>よいーふつうーや>わるいーわるい」および「きついーや>きついーちょうどよいーや>ゆるいーゆるい」の2種類により外観、寸法の両面から判定した。a法は4回、b法は2回繰返し実験を行った。解析は累積度数のデータにより分散分析を行った。さらにSN比を求め判定の精度の比較を行った。

結果 a法で寄与率の高いのは「前身頃」、「後身頃」、「袖ぐり周辺の身頃」、「全体」とともに「判定者」であり、b法では「前身頃」、「後身頃」、「袖ぐり周辺の身頃」の3特性値において「衣服」である。これはaは判定者の判定に個人差が大きいため、よいまたはちょうどよい胸幅・背幅の判定がなされず、bでは判定者の判定の個人差が小さいため、よいまたはちょうどよい胸幅・背幅の判定がなされていることを意味している。SN比からもaよりbの方が判定の精度が高いことが認められた。また、繰返しによる判定の精度の向上は認められなかった。